

# 配色のイメージ① カジュアル

カジュアルのイメージは、明るさや活気、親しみやすさです。

## コントラストがきいた動きのある配色

カジュアルとは、開放的で楽しく、リラックスしたイメージです。気の抜けない友人や家族と、にぎやかに過ごすプライバートタイムなどにふさわしいでしょう。

カジュアルなイメージの配色は、ト

ーンは純色や明清色から選び、それとの色相や彩度に差をつけて、コントラスト感と動きを出すことがポイントです。ビビッドな色がぶつかりあうような、元気な配色をイメージするとよいでしょう。

### Sample



▲若いママたちが気軽に楽しくコミュニケーションをとれる場所、というコンセプトのコンビニエンスストア。店内はビビッドな赤・緑・青を配した、若々しく元気なイメージです。  
<HAPPY LAWSON山下公園店>



▲オレンジと黄がスパイシーなカレー味も思わせる元気な配色は、にぎやかな食事シーンのイメージです。  
<カレーパン/ヤマザキ>



▲パーティーやピクニックなど、大勢で盛り上がるシーンで活躍するプラスチックの食器。高彩度のマルチカラーはカラフルで楽しいイメージです。

### 配色のポイント

#### 色相とトーン

色相は、赤～青の範囲を中心とします。中でも、だいだい・黄の色相は特にカジュアルなイメージになります。純色～明清色の範囲を中心としましょう。

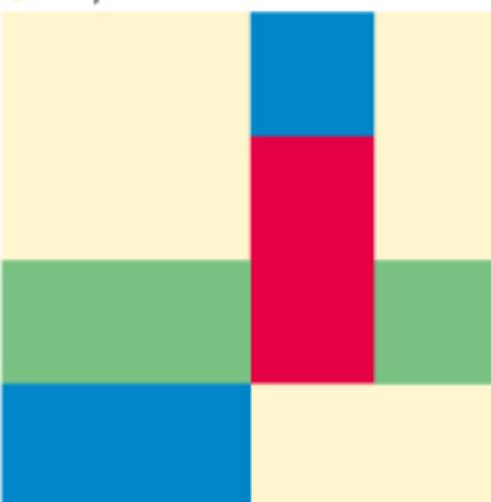
#### 配色のバランス

ベースカラー、アソートカラー、アクセントカラーのコントラストをはっきりつけます。ベースカラーには、中～低彩度の明清色（ライト・ペールトーン）の

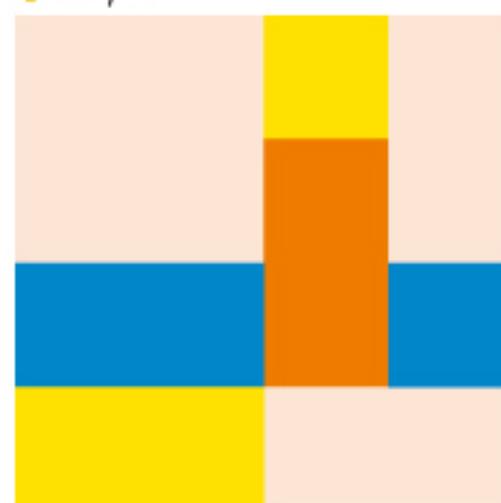
だいだい～黄を選ぶと効果的。アソートカラーはベースカラーと色相や彩度を対比させ、アクセントカラーは高彩度にして、他の色と色相を対比させます。

### Sample

▲ベースカラーに低彩度の黄、アソートカラー・アクセントカラーに高彩度の緑・青・赤を用いた例。多様な色相を使って、彩度と色相の両方でコントラストをつけ、にぎやかなイメージにしています。

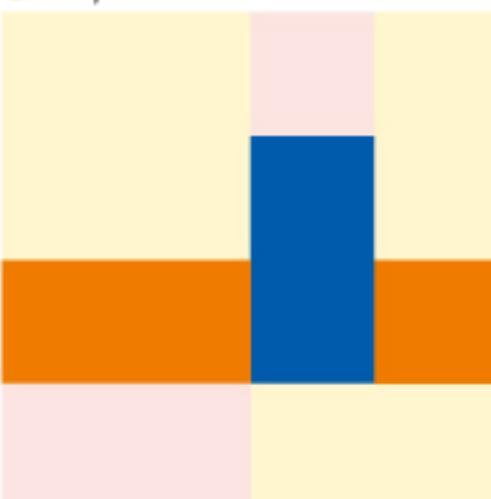


### Sample



▲カジュアルの中でも代表的な色相のだいだい・黄の色相を用いた例。ベースカラーは低彩度とし、アソートカラー・アクセントカラーは高彩度としました。青はだいだいや黄と対照色相の関係です。彩度差・色差が大きい、動きのある配色です。

### Sample



▲アクセントカラーに高彩度の青を用いた例。青はベースカラーの黄とアソートカラーのだいだい・ピンクに対し、対照～補色色相の関係となり、色差が大きいため、コントラストが大きくついた配色です。

# 配色のイメージを使う配色

## ① スタイリッシュさの表現

エッジのきいた色のコントラストがない場合もあるので、ナプキンなどのポイントのため、無彩色とビビッドな寒色の組み合わせが効果的です。ビビッドカラーの食器は料理が美しく見え

ない場合もあるので、ナプキンなどの小物にアクセントとして用いましょう。食器はステンレスや磁器を選ぶとクールさや高級感が強調されます。



## ② カジュアルさの表現

色相は自由に選び、純色や明るい高彩度のトーンを中心としたドミナントトーン配色が効果的です。その場合、対照的な色相を使うと配色に動きが出

ます。また、鮮やかな色と色の間に白を挿入してコントラストをはっきりさせるのもよいでしょう。明快な印象が強調されます。



## ③ オーソドックスさの表現

誰からも好まれ、安心感のあるオーソドックスさの表現には、同系色相を用いてトーンは自由に選ぶドミナントカラー配色が効果的です。単調に感じ

る場合は明度差・彩度差の大きいトーンを用います。写真はだいだい・黄のドミナントカラー配色で、色相がもつ温かいイメージが強調されています。



## ④ 新鮮なイメージの表現

いつもと少し違う雰囲気にしたい場合に効果的なのが、見慣れている自然の中での色の見え方と逆に配色するコンブレックスハーモニー(→P83)

です。新鮮さを感じるテーブルを表現することができます。違和感を感じる場合は、皿に、料理をそのままの色で自然に見せる白を使うのもよいでしょう。



# セミパブリックゾーン

## 家族の好みを取り入れ 明るく楽しい色でまとめる

セミパブリックゾーンは、家族全員の共有ゾーンです。集まって利用する場合も、一人ひとりが個別に利用する場合もあるため、パブリックゾーンと

プライベートゾーンの両方の要素をもちます。基本的にはパブリックゾーンと同様に、統一の調和を基本に考えますが、やや家族の好みを取り入れることができます。イメージは明るく楽しく、清潔感を感じるようにまとめるとよいでしょう。

### ダイニング

Sample



例の使用色のバランス



Sample

### 浴室

浴室をはじめ、洗面所、トイレを含む水回りは家の北側に設計されている場合が多く、寒さを感じやすい場所です。心理的に冷たさを感じさせる寒色は避け、特に温度感を感じにくい緑などの中性色や、ベージュ系、オフホワイト系を中心にまとめるとよいでしょう。空間も狭い場合が多いため、広く感じられるように明度の高い色でまとめると効果的です。

例の使用色のバランス



# プライベートゾーン

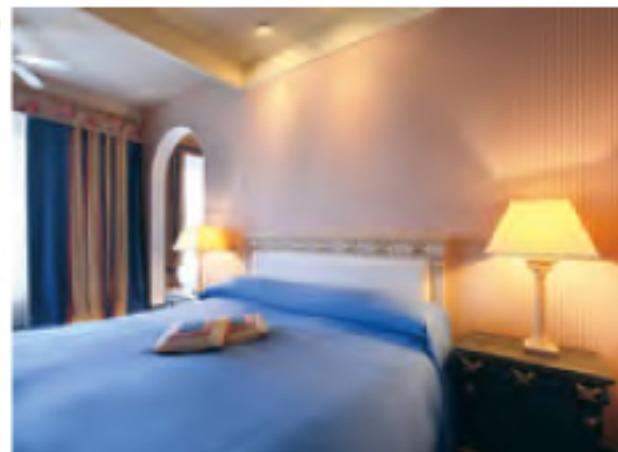
## 個性と目的に合わせて 自由に配色する

プライベートゾーンは、家族の中の、特定の人だけが利用するゾーンです。そのため、利用者の個性や、過ごし方に焦点を合わせた配色を考えます。静かに休息したいという目的がメインの

場合は統一の調和を意識して、同系色相を中心にならうとしているイメージの配色になります。また、趣味や嗜好を取り入れたいという目的がメインになる場合は、きわ立ちの要素をバランスよく取り入れた変化の調和を意識して対照系の色相を用い、個性的な演出をするのもよいでしょう。

### ベッドルーム

Sample



使用色のバランス



Sample

### 子ども部屋 (幼年期)

遊びことがメインの目的である幼年期の子ども部屋は、たくさんの色にふれることができるよう、ビビットトーンやライトトーンの高彩度色を用いて、元気なイメージで配色します。勉強が重視される年齢になったら、集中力の妨げにならないよう、気持ちが落ち着く中間色や寒色系を中心にしてみるとよいでしょう。子どもの個性と成長の様子を、しっかり考慮することが大切です。

使用色のバランス

